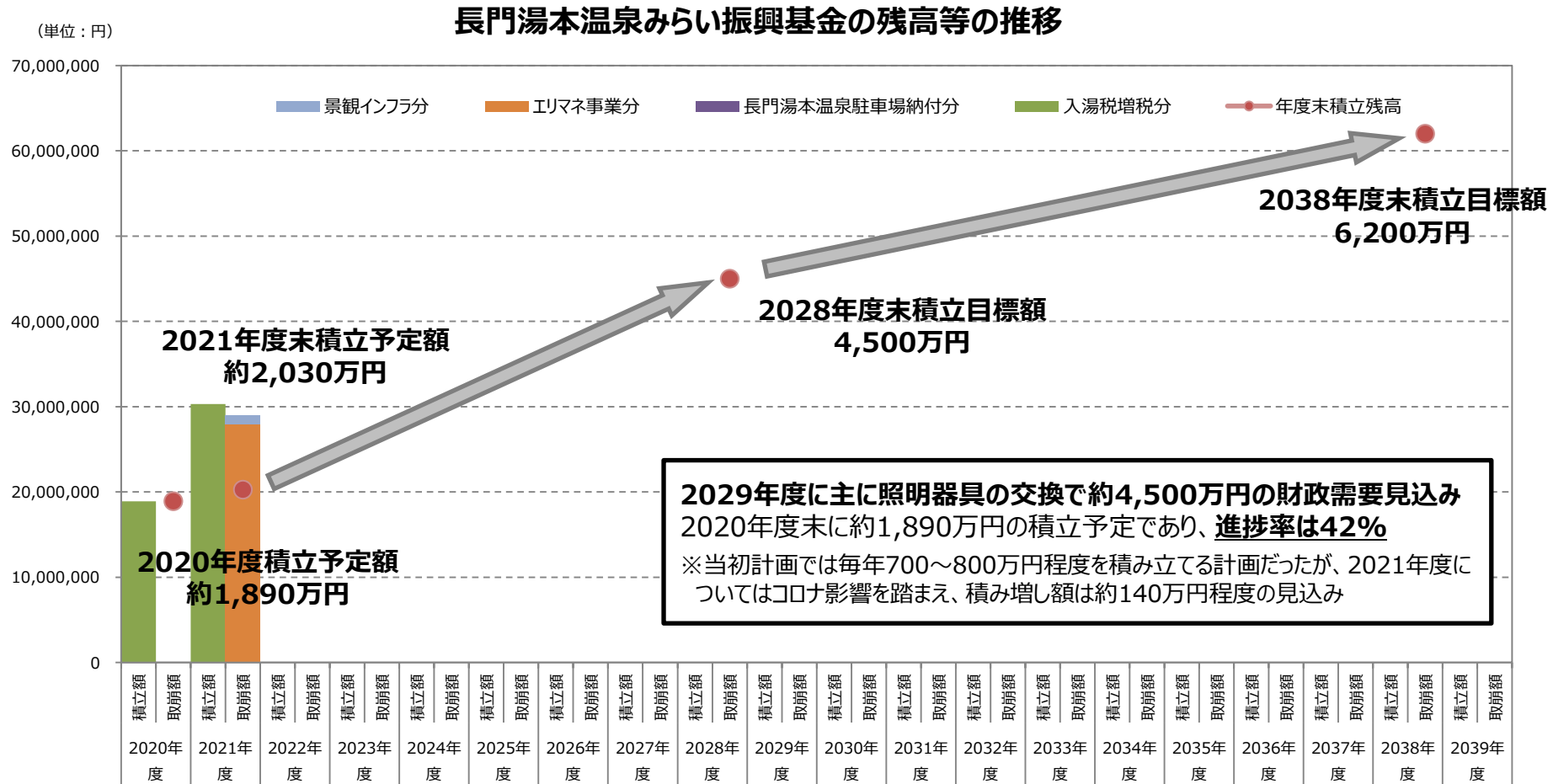


長門湯本温泉観光まちづくり 令和2年度の長門市の取組状況

令和3年6月
長門市

長門湯本温泉みらい振興基金について

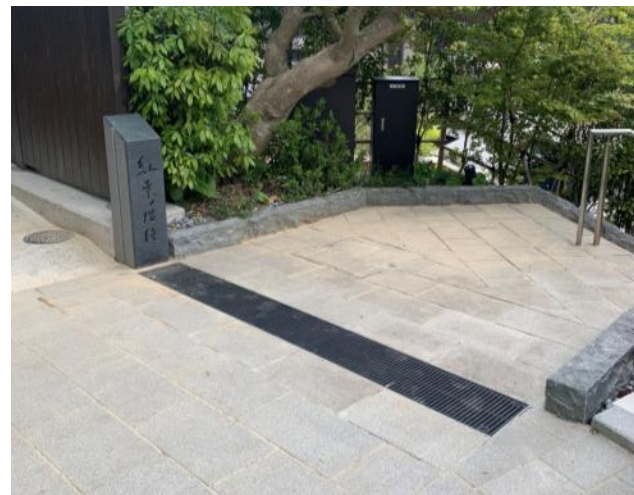
- 新型コロナウイルス感染症の影響による観光客減少のため、昨年度の入湯税収は予算額に対して大幅に減少。
- ただし、昨年度はエリマネージメント事業等の実施には国の交付金を充てることができたことから基金の取り崩しはなく、入湯税増額分の全額を本基金に積立てを行っている。



※2020年度は未決算額、2021年度は予算額

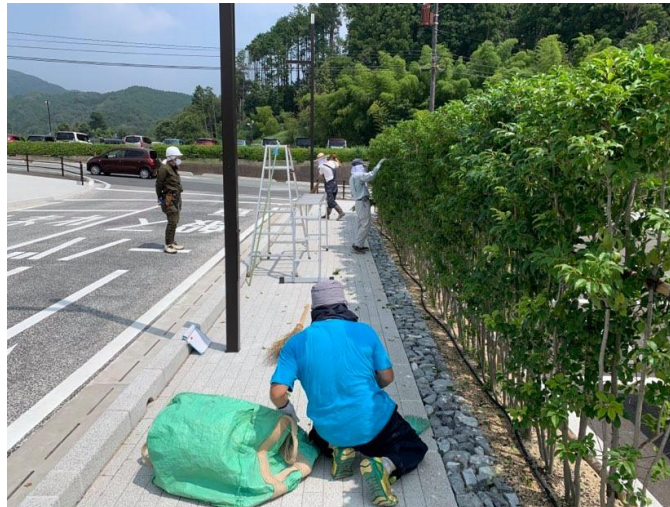
景観インフラの修繕等について

- 水道管の破裂や新規店舗の立地によって、道路工事が発生。その際、脱色アスファルト舗装への早期修繕を実施。
- ハード整備完了後、降雨によって紅葉の階段に土の流出が多く、汚れが目立つ状況だったことから排水側溝を新たに整備し、美観の維持するための工事を実施。



植栽の維持管理について

- 駐車場や竹林の階段等の植栽について、植栽の専門家による維持管理を学ぶためのワークショップを年間を通じて実施。また、ランドスケープデザイナーとともに樹種やエリアごとの管理手法等についてまとめたマニュアルを作成。



足湯の改修検討について

- 足湯については、第2回評価委員会での指摘を踏まえてデザイン会議において改修方法を議論。
- 温泉街の再整備が完了し、そぞろ歩きを楽しむ観光客が増える中、足湯を利用される方も増加しており、温度管理などに対する課題が顕在化。河川公園の足湯は容積も大きく、限りある資源である温泉の湯量の削減とともに、温度管理の適正化が必要。また、おとずれ足湯については温泉の配送距離が長いことから温度低下が以前から課題となっている。
- 足湯利用による観光客の満足度向上につながるよう、ランドスケープデザイナーから提案をいただいた改修案を参考に、今年度以降の早期改修に向け検討中。



おとずれ足湯の利用状況

出典：長門湯本温泉ホームページより



河川公園足湯の改修案

景観修景について

- 令和2年度の景観条例に基づく修景の届出は35件。
- 特に早期に景観修景を促進することが必要であることから、景観ガイドラインに基づく推奨ルールに沿った取組に対して補助事業を実施しており、令和2年度は7軒が補助事業を活用。



観光プロモーションの取組について

- コロナ後の観光集客と地域におけるインナーブランディングを促進する観点から、山口県全体の広域での魅力を詰め込んだDiscover Japan Travel_山口を制作。まち会社や長門市観光コンベンション協会と協力し、首都圏等での情報発信に活用していく。



詳細報告資料

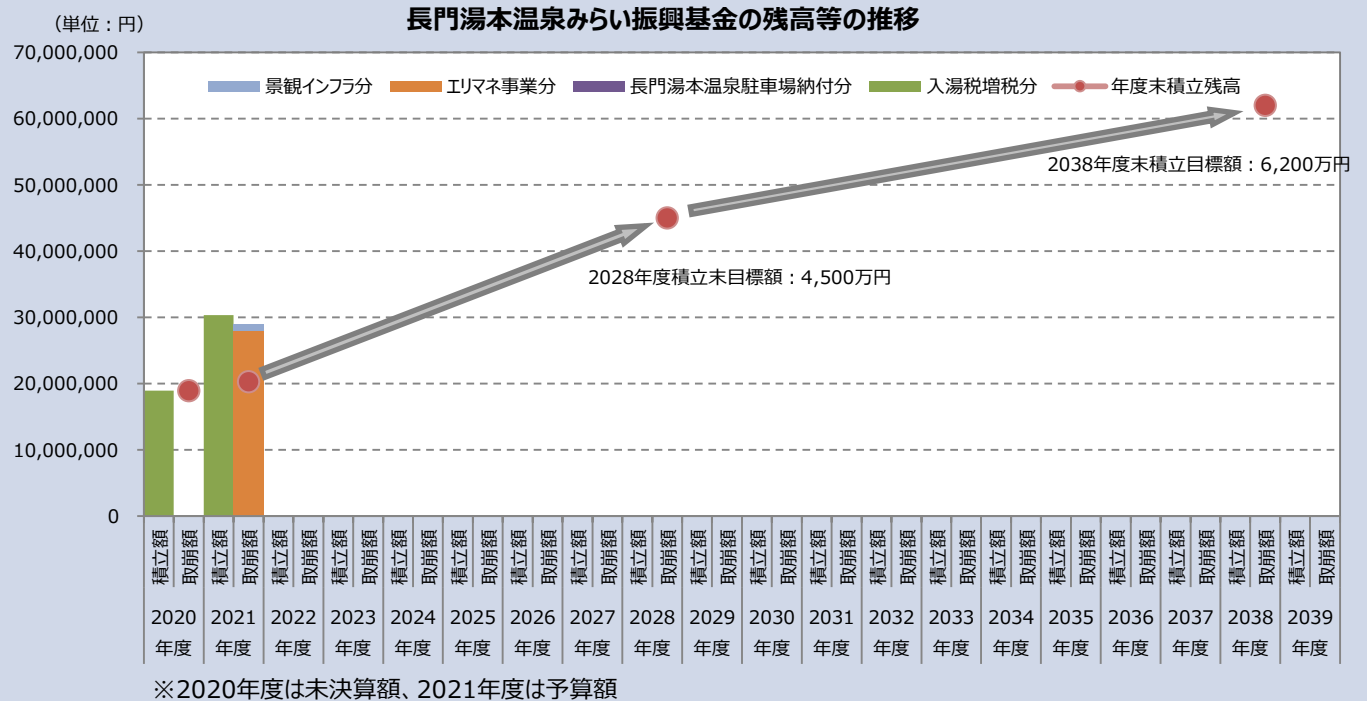
長門湯本温泉観光まちづくり
における
市の役割の基本的考え方
(2020年～2025年)

1. 長門湯本温泉みらい振興基金の適切な管理

- ・基金は長門湯本温泉の観光客から納税された入湯税を活用することで、温泉街の魅力向上に取り組み、持続的な観光振興を通じた観光まちづくりを実現するために設置したもの。
- ・基金は①まち会社が行う地域価値を高める公益性の高い事業、②温泉街の街並みの景観形成に資する施設の維持及び整備に要する費用にのみ充てることとし、取り崩しにあたっては長門湯本温泉みらい振興評価委員会にその内容について意見を聞く。

- ・令和2年度分の基金積立額は18,912,750円を予定。
- ・令和2年度において基金からの支出はなし。道路や照明等の緊急的な修繕に対応する経費として、基金以外から100万円を予算化し、道路修繕等に活用。
- ・評価委員会は6月と12月に2回開催。

市の具体的な取組状況



長門湯本温泉まち株式会社
による
モニタリング結果

入湯税が想定外に減収した中で、最低限のエリアマネジメント事業を円滑に進められる財源を確保いただけたことは、コロナ影響下でも積極的な仕掛けを進めための大きな基盤となった。また、長門湯本温泉まち株式会社の事業計画など取組の方向性についても、みらい振興評価委員会での議論を中心に、民間が主導して進めることが出来た。基金への積立に関しては、想定よりも厳しいスタートとならざるを得なかったが、中期見通しを共有しながら、取り戻せない不足が生じないよう調整していきたい。

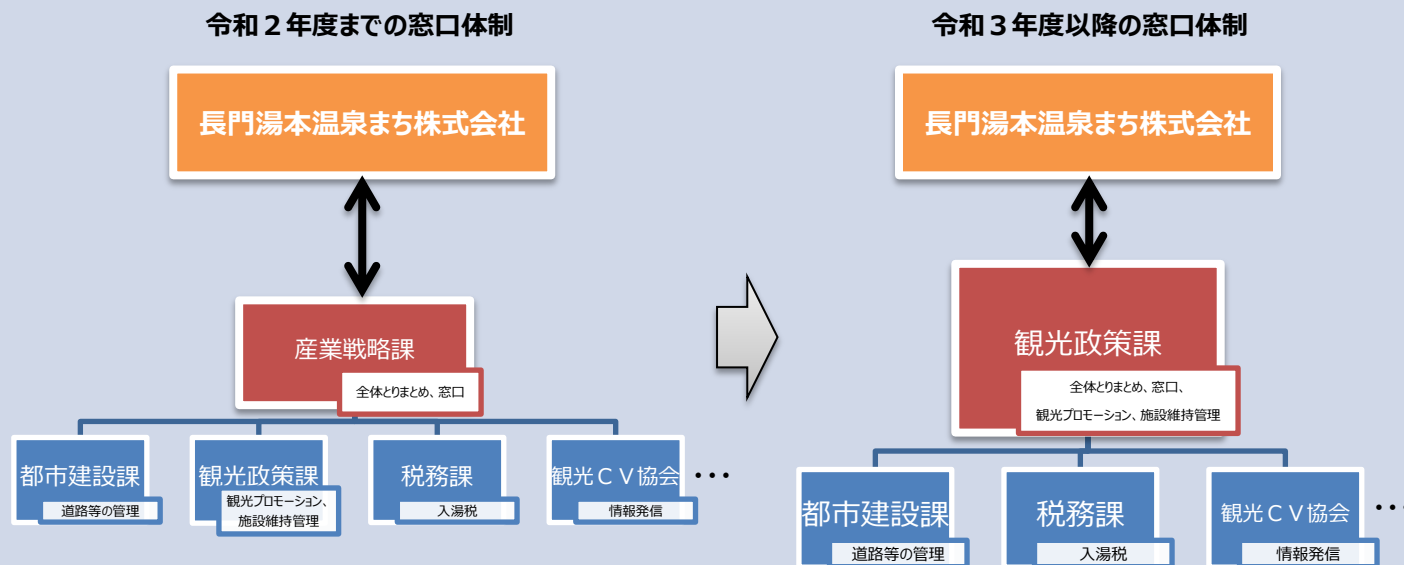
長門湯本温泉観光まちづくり
における
市の役割の基本的考え方
(2020年～2025年)

2. 長門湯本温泉まち株式会社との関係・市の体制

- ・「長門湯本温泉の持続的な観光まちづくりに関する協定（令和2年3月10日締結、以下「協定」という）」に基づき、相互協力の下、取組を行う。
- ・当該協定に基づき、一元的な窓口部署を設置し、必要な予算及び人員体制を確保する。
- ・また、協定に基づき、まち会社の事業計画の策定、景観インフラの管理、市有地の利活用に関して事前に相互協議を行う。

- ・経済観光部産業戦略課を一元的な窓口として、まち会社等の温泉街の事業者等との調整を実施。なお、令和3年度以降は同観光政策課に担当を変更し、体制を構築。
- ・道路補修等の実施に際しては、事前にまち会社に情報を共有し、景観インフラの維持を行ってきた。
- ・また、シネマイイベントやうつわの秋、うたあかりの実施に際しても、地域や警察、保健所、市役所の関係部署との調整等を行い、まち会社が円滑に取り組むことができるようサポートを行った。

市の具体的な取組状況



長門湯本温泉まち株式会社
による
モニタリング結果

令和2年度については、エリアマネジメント事業の立上げ期にあつて、産業戦略課担当者の全面的なバックアップと市役所内での一元窓口機能の発揮により、長門湯本温泉まち株式会社としては新規の仕掛けづくりに注力することが出来た。令和3年度以降は新たな体制となるが、観光政策課が縦割り観光部局としてのみ関わるのではなく、建築・土木・食・地場産業・文化・教育など幅広い行政分野の観光まちづくりの観点からの司令塔として機能し続けることを期待。特に、観光政策課の一元相談窓口機能の下で、①交通・照明等の緊急対応における迅速性、②景観や情報発信等に関する円滑な情報共有、③公民での地元とのネットワーク構築を進め、さらに今後は④観光コンベンション協会との連携についても具体化していきたい。

長門湯本温泉観光まちづくり
における
市の役割の基本的考え方
(2020年～2025年)

3. 道路・照明・植栽などの景観インフラの維持・修繕

- ・協定の目的を踏まえ、道路や照明等の景観インフラについて、点検及び適切な修繕を行い、温泉街の魅力向上に取り組む。
- ・道路の汚損や照明の不点灯等が温泉街に与えるマイナス影響を考慮し、効率性を踏まえつつ、適宜・適切なタイミングで早期に修繕を行う。
- ・植栽については、まち会社及びオト活用協議会と連携し、市有地（3か所の暫定地等）の必要な整備を行う。
- ・道路等の高木については安全性を確保する観点から行政が管理を担い、景観を損ねないように、まち会社等と協議の上、必要な剪定を行う。

- ・水道管の破裂や民間店舗の新設に伴って、2件の道路工事を実施。その際、脱色アスファルト舗装への修繕を早期に実施。また、狭窄部の金属製ボラードが車の接触等により3回破損したが、すべて修繕対応済み。
- ・令和元年度までの整備後、降雨時に汚損が生じやすかった紅葉の階段について、排水側溝を設置し対処。
- ・照明の不具合や不点灯等の初期不良、植栽管理時における断線による修繕の必要性が生じたが、工事請負業者等と調整し、一連の不具合を早期に対応。
- ・植栽管理に関しては、造園業者等との調整を行い、まち会社及びオト活用協議会とともに、維持管理講習を実施するとともに、植栽の維持管理マニュアルを制作。また、令和3年度以降の維持管理方法について調整を行った。

市の具体的な取組状況

おとずれ通りの道路補修



水道管の破裂による道路補修工事を行う際に、脱色アスファルト舗装に修繕を実施。

専門家による植栽管理講習の実施



植栽のエリア別の適切な管理方法を検証するため、専門家による管理ワークショップを実施。

長門湯本温泉まち株式会社
による
モニタリング結果

令和2年度においては、植栽が根付く期間とも重なり、水やりを含めて当初想定していなかった量の植栽管理作業が発生したが、市においてもオト活用協議会と連携いただき、何とか乗り越えることができた。また、恒常的に続く芝生の水やり等については設備面での対応もいただくことができた。道路舗装の補修等についても、事前にコミュニケーションを取りながら、景観にも配慮する形で進めていただけた。

高木の管理をはじめ、まだ管理区分が明確になっていない部分があるため、財源となり得る駐車場管理の枠組みと連動しながら引き続き協議をお願いしたい。

長門湯本温泉観光まちづくり
における
市の役割の基本的考え方
(2020年～2025年)

4. 公共施設の適切な管理

- ・温泉街にある公衆トイレ（河川公園、一ノ瀬橋付近、大寧寺、長門湯本駅）について、不衛生なトイレは観光客の満足度低下を及ぼすことから、既存施設を有効に活用し、これらの清潔さの維持管理を徹底する。
- ・温泉街中心部へのトイレの新設は、温泉街の景観への影響、トイレ周辺での悪臭、維持管理コストの増加等の観点から行わない。また、温泉街中心部における駐車場についても、歩ける温泉街の形成、景観維持の観点から市有地における新設は行わない。
- ・足湯については温泉街の風情として満足度を高めることができる施設であり、特徴的な温泉街の景観を眺めることができる「休む・佇む場所」として、適切な管理を行う。

- ・これまで地元自治会が清掃管理を行っていた長門湯本駅の公衆トイレについて地元から高齢化等に伴って維持管理が困難との申し出があったことやその他の公衆トイレが汚いなどの観光客からのクレームを踏まえ、温泉街の公衆トイレについて、清掃巡回を徹底すべく、令和3年度から市による一元的な清掃管理業務に変更。
- ・車いす等の観光客の利便性向上のため、公衆トイレへの近さを考慮しつつ、必要最低限の措置として河川公園近くの市有地に1台分の多目的駐車スペースを確保（温泉街の交通量を増加させないよう、恩湯通りを通らない場所とした）。
- ・足湯の満足度向上に向け、河川公園足湯の改修イメージをデザイン会議において検討。令和3年度以降の早期改修に向け、検討を開始。
- ・温泉の配湯事業については、一部の旅館において配湯許可量を超える利用があり、当該旅館に漏水の防止対策等の指導を実施。

市の具体的な取組状況

河川公園横の新設身障者用駐車場



河川公園足湯改修のイメージ図



※上記は改修デザイン案であり、今後具体的に検討を進める。

長門湯本温泉まち株式会社
による
モニタリング結果

トイレについては、上記方針に沿って、既にあるトイレの快適性向上について、新たな管理体制のもとで着実に進めていきたい。限りある中心部の土地利用については、そぞろ歩きの楽しい温泉街の魅力向上の観点で協議していきたい。足湯に関しても、温泉街らしい風情や季節魅力の向上の基盤として重要であり、早期の検討をお願いしたい。

配湯事業については、地元が参画した配湯管理委員会の枠組みも活用しながら、公民が一体となって適正かつ有効な資源の有効利用に結び付けていきたい。

長門湯本温泉観光まちづくり
における
市の役割の基本的考え方
(2020年～2025年)

5. その他

- ・景観条例に基づく必要な指導や条例及び景観ガイドラインの周知を通じて、温泉街の景観維持を図る。
- ・長門湯本温泉駐車場の指定管理制度の適切な運営、指定管理業者との連携を行い、安心して歩ける温泉街の形成に向けて取り組む。
- ・市内交通対策と連携し、新山口駅や山口宇部空港等からの2次交通対策に取り組み、温泉街への多様なアクセスの利便性を向上する。
- ・まち会社や観光コンベンション協会と連携を図り、長門市全体のプロモーション事業等による情報発信を行う。

- ・景観条例に基づく修景の届出は重点地区である温泉街では35件（市全体では87件）（令和2年度）。
- ・景観ガイドラインに基づく望ましい修景が進むよう、修景補助金（令和2年度予算額500万円）を設置しており、令和2年度は7件が補助金を活用。早期修景を進めるべく令和5年度まで実施予定。
- ・駐車場は長門湯守株式会社を指定管理者として指定。適切な管理が進められたことから令和3年度も継続して指定。
- ・新山口駅－長門市の直通バスを一日2往復で運営。新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用数は減少したものの、利便性を向上させるべく、令和3年度は1便増加させ、3往復に増便。
- ・また、温泉街から市内他地域へのアクセスを向上させるアクティビティとして、民間事業者によるレンタサイクル事業が令和3年度から導入される予定であり、当該事業について長門市観光コンベンション協会が事業実施をサポート。
- ・ポストコロナに向けた情報発信を行うべく、まち会社等と連携し、Discover Japanと連携した観光プロモーションを実施。3月にはDiscover Japan Travel_山口を発刊し、全国発売。

市の具体的な取組状況

景観修景の事例



Cafe&pottery 音 隣の川沿い
民家の修景を支援。

長門湯本温泉での散走プロジェクト実証



長門湯本－仙崎地区間でのサイクルア
クティビティとして実証を実施。

Discover Japan Travel_山口



長門湯本温泉まち株式会社 による モニタリング結果

新型コロナウイルス感染症に係る最初の緊急事態宣言中に、将来のプロモーション効果を期待した予算措置をいただけたこと、プロモーションにおいて、プロフェッショナルの編集の下でターゲットに応じた内容を盛り込めたことは、行政のご理解の賜物。景観関連の取組に関しては、デザイン会議が無くなり、市役所が主導する体制となるが、引き続き連携しながら、丁寧な働きかけをお願いしたい。観光コンベンション協会のコンテンツ造成に関する関与については、十分に把握できていないので、コメントをするのは来年度以降としたい。

また、今後の政策議論においては、避けられない「GoTo後の冷え込み」を見越した仕掛けを一緒に検討していきたい。